

高知県感染症発生動向調査（週報）

2021年 第43週 （10月25日～10月31日）

インフルエンザ予防接種について！

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンには、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められており、ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

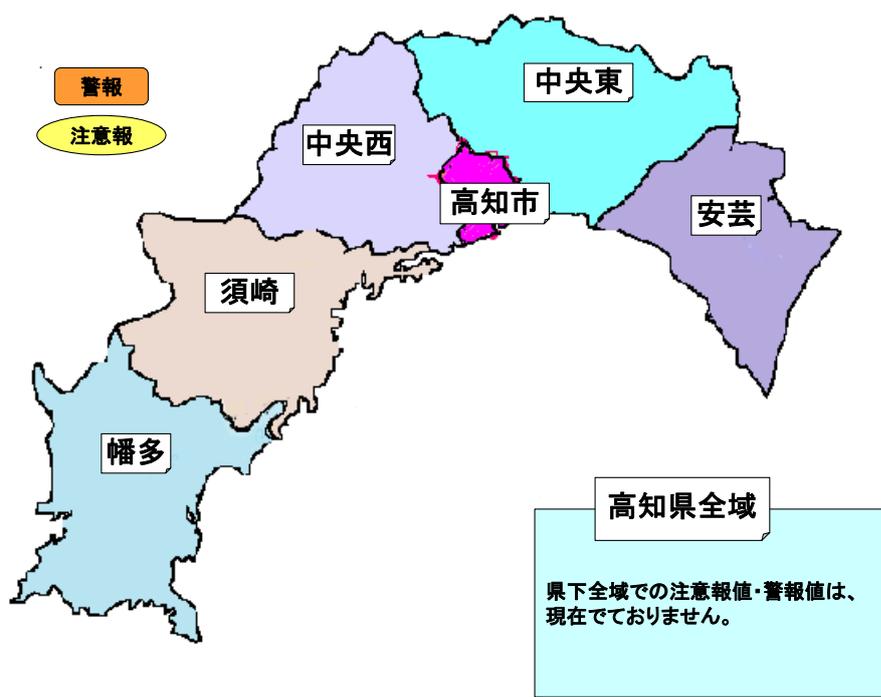
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1.25	中央東で急減していますが、須崎で急増、幡多で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	0.43	須崎で急減、幡多で減少していますが、県全域、高知市、中央東で急増しています。
突発性発疹	↗	0.39	中央東で急減、高知市で減少していますが、須崎、中央西、幡多で急増、県全域で増加しています。
手足口病	↓	0.29	県全域、須崎、中央西、高知市で急減、幡多で減少しています。
ヘルパンギーナ	↑	0.18	県全域、須崎、高知市で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

予防接種は大切です。

予防接種とは、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。ワクチンを接種した方が、病気にかかることを予防したり、人に感染させてしまうことで社会に病気が蔓延してしまうのを防ぐ効果があります。また、病気にかかったとしても、ワクチンを接種していた方は重い症状になることを防げる場合があります。

●高知県庁ホームページ 健康対策課感染症対策 予防接種について

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousessyu.html>



★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

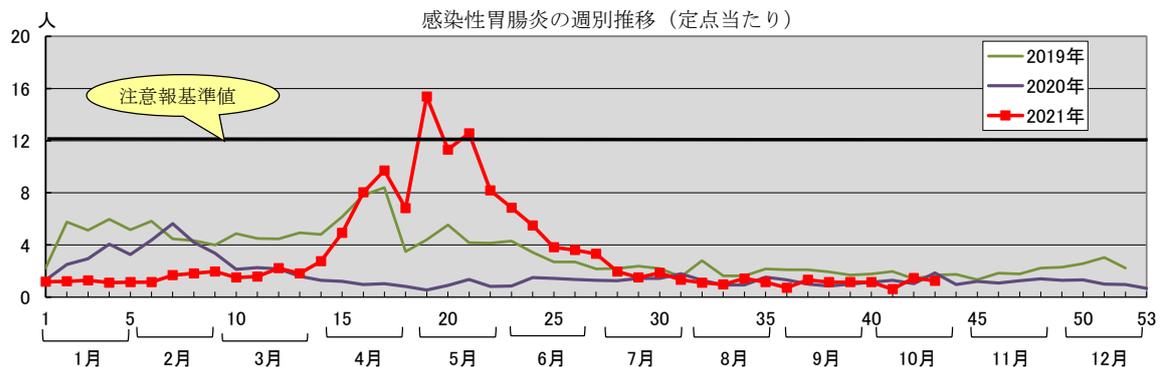
○感染性胃腸炎に気を付けて！

この病気は、ウイルス又は細菌などの病原体により嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

潜伏期は、ノロウイルスは12～48時間程度、その他のウイルスは24～72時間程度、細菌は数時間～5日程度です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通じて発生していますが、特に冬場に流行します。発症してから通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長い時には1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。



<予防方法>

- ・帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。
- ・ウイルスによる感染性胃腸炎では便や嘔吐物を処理する時は気を付けましょう。（ノロウイルスについてアルコール消毒は無効です）

感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

- ・細菌による感染性胃腸炎の予防対策を心がけましょう。

食中毒の一般的な予防方法（【食中毒予防の三原則】食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

【学校感染症】

感染性胃腸炎（流行性嘔吐下痢症）は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときはこの限りでないと規定されています。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
 - マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
 - 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
 - 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
5類	梅毒	1	79	30歳代 男性	高知市

★定点医療機関からのホット情報

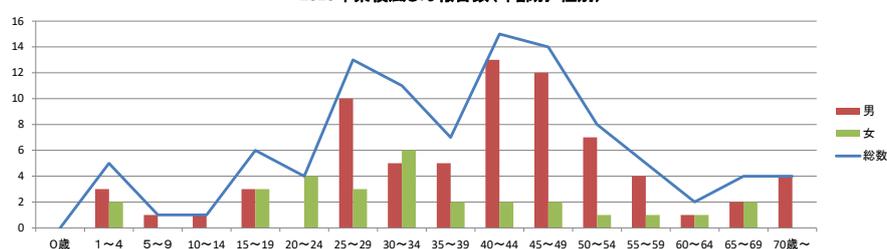
保健所	医療機関	情 報
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 2例（0歳、1歳） カンピロバクター+病原性大腸菌（血清型不明）腸炎 1例（13歳）
	福井小児科・内科・循環器科	手足口病 1例 ヘルパンギーナ 1例

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2021年42週までの累積報告数は10人（男性7人、女性3人）、2020年累積報告数は100人（男性71人、女性29人）となっており、そのうち87%（87人）が成人で、25歳から50歳代の男性が中心となっています。

2020年累積風しん報告数（年齢別・性別）



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。

風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

- 対象者**・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）
 - ・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布
1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

検査結果：検査後1～2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします。

●厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

●無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html>

●風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

.....

○高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVIT-19.html>

高知県保健所別新型コロナウイルス感染症報告者数

		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	県外	総計	
10月	4	月	1	1					2	
	5	火		1			1		2	
	6	水				1			1	
	7	木		1			2		3	
	8	金				1			1	
	9	土							0	
	10	日							0	
	11	月	1						1	
	12	火					5		5	
	13	水							0	
	14	木			2		1		3	
	15	金			2				2	
	16	土	1	2					3	
	17	日		3	1				4	
	18	月		4	4				8	
	19	火		2					2	
	20	水		1	1				2	
	21	木		2	1	1			4	
	22	金		2	1				3	
	23	土							0	
	24	日		1	1				2	
	25	月							0	
	26	火							0	
	27	水		2					2	
	28	木							0	
	29	金		1		1			2	
	30	土		2		2			4	
	31	日		1					1	
	総計		109	520	2963	264	133	174	2	4165

数字は各地域でその日陽性が確認された数
総計はR2年2月28日以降の報告者数

○梅毒

(国立感染症研究所IDWR2021年第41号より)

梅毒は梅毒トレポネーマ (*Treponema pallidum* sub-species *pallidum* : *T. pallidum*) を原因菌とする細菌感染症で世界中に広く分布している。

梅毒は、性感染症としての患者数が多いこと、比較的安価な診断法があること、ペニシリン等有効な抗菌薬があり、また妊娠中の母体への適切な抗菌薬治療で母子感染が防げることから公衆衛生上重点的に対策をすべき疾患として位置付けられている。

主に性的接触により感染し、病変が様々な部位に生じることから、膈性交以外でも感染伝播の可能性がある。感染しても終生免疫は得られず、再罹患する可能性がある。

*T. pallidum*が粘膜や皮膚に侵入すると、数週間程度の潜伏期の後に、侵入箇所初期硬結や硬性下疳がみられ (I期顕症梅毒)、いずれも無痛性であることが多い。その後数週間～数カ月間経過すると *T. pallidum*が血行性に全身へ移行し、典型例では全身の皮膚や粘膜に発疹がみられるが、その他にも中枢神経、眼、肝臓、腎臓など全身の臓器に様々な症状を呈しうる (II期顕症梅毒)。発疹は多岐にわたるが、丘疹性梅毒疹、梅毒性乾癬、バラ疹などが高い頻度で認められる。これらI期とII期の梅毒を早期顕症梅毒と呼ぶ。無治療であっても、多くの場合、I期の症状は数週間で、II期の皮膚粘膜病変は数週間～数か月で消退する。無治療の場合、一定数の患者が感染後数年～数十年後に、ゴム腫、心血管症状など晩期顕症梅毒の症状を呈するとされている。

また、妊婦が感染すると菌は胎盤を通じて胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。先天梅毒では、生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などを認める早期先天梅毒と、乳幼児期は症状を

呈さず、学童期以降Hutchinson 3徴候（実質性角膜炎、感音性難聴、Hutchinson歯）を呈する晩期先天梅毒がある。

*T. pallidum*は培養ができないため、病変由来の検体にて顕微鏡で菌体を確認、PCR検査等で*T. pallidum* DNAを検出、ないし患者血清中の菌体抗原およびカルジオリピンに対する抗体を検出することで梅毒と診断する。

治療にはペニシリン系抗菌薬が有効であり、国内ではアモキシシリンの経口投与や神経梅毒と診断された場合にはベンジルペニシリンカリウム点滴静注による治療が日本感染症学会により推奨されている。また2021年9月には、梅毒の世界的な標準治療薬であるベンジルペニシリンベンザチン筋注製剤の国内での製造販売が承認された。

梅毒は感染症法により全数把握対象疾患の5類感染症に定められ、診断した医師は7日以内に管轄の保健所に届け出ることが義務づけられている。1948年以降、梅毒患者報告数は小流行を認めながら全体として減少傾向であったが、2010年以降増加に転じ2018年には7,000例近くの症例が報告された。その後いったん減少傾向がみられたが今年になってまた増加がみられる。

2021年第1～1週まで（2021年1月4日～0月17日）に診断され、感染症法に基づく医師の届出による梅毒として報告された症例数は5,816例（2021年10月20日時点、暫定値）で昨年同時期（4,560例）の1.3倍であった。また、1999年の感染症法施行以降、最多であった2018年の第41週の週報集計時点報告数（5,365例：2018年10月17日現在）を上回っている。性別は男性3,855例、女性1,961例で、昨年同時期（男性2,996例、女性1,564例）と比較してともに1.3倍であった。報告都道府県別では、東京都1,844例、大阪府627例、愛知県299例、福岡県262例、神奈川県227例、埼玉県223例と多く報告された。感染経路別では、男性は異性間性的接触が2,278例（59%）、同性間性的接触が678例（18%）の報告であった。また、女性の異性間性的接触は1,554例（79%）であった。病型は、感染早期の患者動向を反映し、最も感染力の高い早期顕症梅毒が、男性3,022例（78%）、女性1,208例（62%）であった。

5歳毎の年齢分布として、男性は多くが20～54歳の各年齢群より報告されており（計3,269例：男性報告全体の85%）、報告数が最も多い年齢群は25～29歳（552例：男性報告全体の14%）であった。女性は15～34歳の年齢群から多く報告されており（計1,423例：女性報告全体の73%）、20～24歳（652例：女性報告全体の33%）が最も報告数の多い年齢群であった。先天梅毒は15例が報告された。

2010年以降梅毒の報告数は増加傾向に転じており、2019年、2020年には減少したものの、新型コロナウイルス感染症パンデミックが続いている2021年の報告数は再び増加している。全国的に増加がみられており、東京都と大阪府、そしてその周辺の地域からの報告が特に多い。昨年に引き続き、男女の異性間性的接触による報告数増加の傾向が続いており、母子感染による先天梅毒の増加も懸念される。また同性間性的接触による報告数も増加している。

今後の梅毒の発生動向を引き続き注視するとともに、後述の感染リスクが高い集団に対して啓発を行っていくことが重要である。具体的な啓発のポイントとしては、不特定多数の人との性的接触はリスク因子であり、その際にコンドームを適切に使用しないことがリスクを高めること、オーラルセックスやアナルセックスでも感染すること、梅毒の症状で、たとえ潰瘍などの病変に痛みがなく自然消失したとしても、梅毒を疑い早期に医療機関を受診すること、梅毒は終生免疫を得られず再感染することなどが挙げられる。

梅毒の母子感染予防については、梅毒スクリーニング検査を含む妊婦健診の推進、妊娠中に少しでも心当たりや疑わしい症状があった際の積極的な梅毒検査の実施、梅毒と診断された時の早期治療の実施、妊娠中の安全な性交渉に関する啓発等が重要である。

医療機関では早期診断、早期治療、ハイリスクと考えられるパートナーへの性感染予防教育や他の性感染症の疑いで受診した人への梅毒の検査・治療を推進することが重要である。なお、梅毒の陰部潰瘍はHIVなど他の性感染症の感染リスクを高めるという点も肝要である。医師は梅毒と診断した場合には、感染症法に基づく届出を行う必要がある。梅毒の感染経路、症状、治療、予防等に関しては、「梅毒に関するQ&A」、性感染症の啓発活動に関しては、「性感染症」を参照されたい。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2021年11月1日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(57定点医療機関)

第43週 令和3年10月25日(月)～令和3年10月31日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所							計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)		全国(42週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	R3/1/4~R3/10/31				R3/1/4~R3/10/24			
インフルエンザ	インフルエンザ							()	()	13 ()	4 (0.08)	786 (0.16)			
小児科	咽頭結核熱			1				1 (0.04)	3 (0.11)	284 (0.09)	221 (7.37)	27,716 (8.79)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	7			2	12 (0.43)	5 (0.18)	1,527 (0.49)	395 (13.17)	75,661 (24.00)			
	感染性胃腸炎	2	5	21		1	6	35 (1.25)	41 (1.46)	7,050 (2.24)	3,991 (133.03)	359,736 (114.09)			
	水痘	1	1		1		1	4 (0.14)	1 (0.04)	234 (0.07)	136 (4.53)	13,651 (4.33)			
	手足口病			2	1	1	4	8 (0.29)	25 (0.89)	5,110 (1.62)	1,053 (35.10)	38,433 (12.19)			
	伝染性紅斑							()	()	37 (0.01)	35 (1.17)	1,834 (0.58)			
	突発性発疹		1	3	3	3	1	11 (0.39)	9 (0.32)	1,161 (0.37)	400 (13.33)	49,941 (15.84)			
	ヘルパンギーナ			2		2	1	5 (0.18)	2 (0.07)	2,231 (0.71)	1,048 (34.93)	25,711 (8.15)			
	流行性耳下腺炎							()	()	120 (0.04)	28 (0.93)	6,347 (2.01)			
	RSウイルス感染症							()	()	1,148 (0.36)	3,208 (106.93)	217,523 (68.99)			
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	3 ()	()	116 (0.17)			
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	()	147 (0.21)	19 (6.33)	5,572 (8.03)			
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	4 (0.01)	5 (0.63)	294 (0.62)			
	無菌性髄膜炎							()	()	11 (0.02)	2 (0.25)	369 (0.77)			
	マイコプラズマ肺炎							()	()	10 (0.02)	9 (1.13)	601 (1.26)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	()	()	18 (0.04)			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							()	()	1 ()	4 (0.50)	64 (0.13)			
計	3	10	37	5	7	15	77			19,091	10,558	824,373			
小児科定点当たり人数	(1.50)	(1.42)	(3.99)	(1.66)	(3.50)	(3.00)	(2.72)				(350.57)				
前週	2	15	37	7	7	18		86							
小児科定点当たり人数	(1.00)	(2.14)	(4.11)	(2.33)	(3.50)	(3.60)		(3.07)							

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(57定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所							計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)		全国(42週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	R3/1/4~R3/10/31				R3/1/4~R3/10/24			
インフルエンザ	インフルエンザ											0.08	0.16		
小児科	咽頭結核熱			0.11				0.04	0.11	0.09	7.37	8.79			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.78			0.40	0.43	0.18	0.49	13.17	24.00			
	感染性胃腸炎	1.00	0.71	2.33		0.50	1.20	1.25	1.46	2.24	133.03	114.09			
	水痘	0.50	0.14		0.33		0.20	0.14	0.04	0.07	4.53	4.33			
	手足口病			0.22	0.33	0.50	0.80	0.29	0.89	1.62	35.10	12.19			
	伝染性紅斑									0.01	1.17	0.58			
	突発性発疹		0.14	0.33	1.00	1.50	0.20	0.39	0.32	0.37	13.33	15.84			
	ヘルパンギーナ			0.22		1.00	0.20	0.18	0.07	0.71	34.93	8.15			
	流行性耳下腺炎									0.04	0.93	2.01			
	RSウイルス感染症									0.36	106.93	68.99			
眼科	急性出血性結膜炎											0.17			
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.21	6.33	8.03			
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.63	0.62			
	無菌性髄膜炎									0.02	0.25	0.77			
	マイコプラズマ肺炎									0.02	1.13	1.26			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)											0.04			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.50	0.13			
計	1.50	1.42	3.99	1.66	3.50	3.00	2.72				350.57				
前週	1.00	2.14	4.11	2.33	3.50	3.60		3.07							
小児科定点当たり人数	(1.00)	(2.14)	(4.11)	(2.33)	(3.50)	(3.60)		(3.07)							

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2021年 第43週)

